

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(5年計画の5年目)

1. 研究課題

漢籍リポジトリの基礎的研究

Fundamental research of the Kanseki Repository

2. 研究代表者氏名

ウィットイルン クリスティアン

Christian Wittern

3. 研究期間

2016年4月-2021年3月(5年目)

4. 研究目的

平成 25 年 4 月から平成 28 年 3 月開催された研究班「人文情報学の基礎研究」では文献学的な手法に基づいた漢籍電子テキストの集合である漢籍リポジトリ (www.kanripo.org) の構築に取り組み、初歩的な形で公開ができた。しかし、テキスト集合の完成度または各テキストの適切な記述などにまた課題が残された新研究班は引き継ぎ漢籍リポジトリの基本的な整理と研究が行う予定だ。利用者の立場からも漢籍リポジトリの全体に関わる研究または特定な研究課題に絞った研究を支援するや、個人研究者や研究者グループに行う漢籍の解読を支援するツールの研究・開発も計画されている。それ以外には現時点で特に課題になると思われるのは、複数の版からなる批判校訂版の作成と画面上の表示や印刷様の組版のワークフローの検討や、漢籍リポジトリ全体の文字使用とその規範、正字と異体字の対応などを検討するが、具体的な課題とその進め方は班員の関心に沿ってきめる。

The research seminar “Fundamental Topics in Digital Humanities” held from April 2013 to March 2016 produced as one of its results a first preliminary release of a comprehensive repository of premodern Chinese texts based on clear philological principles called “Kanseki Repository” (www.kanripo.org). However, due to the limited time, only a very rough draft could be produced and some important texts are still missing. This seminar will follow up on these results by improving the scope and descriptive depth of the texts and by developing exemplary methods for using the repository for answering specific research questions. Among these, support for the creation of text-critical editions and a general survey of the

characters used in the Repository are on the agenda, but the actual plan will be developed by the members upon start of the seminar.

5. 本年度の研究実施状況

今年度は漢籍リポジトリに90点の漢籍を追加した。利用者からの要望に応じて漢籍リポジトリ本体のファイル形式などの改善可能な点についての検討が行った。その結果としては新しい機能と現行のリポジトリの両立を考慮して、これから実行可能な運営形態を検討しました。その結果としては基本的には漢籍リポジトリをそのままの運営を続ける上で、新しい形のXML版に基づいて別途のAPIとインタフェースを立ち上げることが望ましいという結論を得た。今年度はその形式の基本的な枠組に必要なを作成して、GitHubで公開しました。

関連プロジェクトとしては「漢學文典」(通称TLS、Thesaurus Linguae Sericae)の支援も継続した。具体的にはプリンストン大学の東アジア研究所(米国)とボーフム大学の中國傳統文化研究センター(ドイツ)との共同研究で「漢學文典」の新しい共同研究・共同作業のためのウェブサイト(hxwd.org)の構築と実験運用をはじめました。

6. 本年度の研究実施内容

2020-05-12 今年度の予定

2020-05-26 次世代漢籍リポジトリに向けて(1)

2020-06-09 次世代漢籍リポジトリに向けて(2)

2020-06-23 Textual Communities & implementation of standoff markup

2020-07-14 The concept of work in digital texts

2020-10-13 Details of KanripoX format

2020-10-27 KanripoX development(1)

2020-11-24 Japanese Buddhist Manuscripts (Gaétan Rappo)

2020-12-08 KanripoX development(2)

2021-01-12 Updates to KanripoX files

2021-01-26 About the final report

7. 共同研究会に関連した公表実績

論文:

(2018年度のTEI国際学会の基礎講演に基づいて)

Christian Wittern, Digital Texts in Practice, Journal of the Text Encoding Initiative, Volume 13 (2020), <https://journals.openedition.org/jtei/3187>

ウェブサイト:

漢籍リポジトリ: <https://www.kanripo.org>

漢學文典: <https://hxwd.org>

8. 研究班員

所内

安岡孝一、古勝隆一、永田知之、白須 裕之

学内

宮崎 泉（文学研究科）

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者	若手研究者	大学院生	総計	外国人	若手研究者	若手研究者	大学院生
				(40歳未満)	(35歳以下)				(40歳未満)	(35歳以下)	
学内(法人内)		7	3	2	1	1	96	42	28	14	14
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(14)	(14)	(14)	(14)	(14)
国立大学											
公立大学											
私立大学											
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等公的研究機関											
民間機関											
外国機関											
その他											
計	0	7	3	2	1	1	96	42	28	14	14
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(14)	(14)	(14)	(14)	(14)

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	1		1	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)				
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)				
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

雑誌名	掲載論文数	掲載年月日	論文名	発表者名
Journal of the Text Encoding Initiative	1	R2.11	Digital Texts in Practice	Christian Wittern

11. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

12. 次年度の研究実施計画

なし

13. 次年度の経費

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究班の成果としてはデータ交換のXML形式はGitHubなどで公開中(<https://github.com/kanripox/kanripox-dev/blob/master/KRX.odd>)、又は漢籍リポジトリ(<https://www.kanripox.org>)と漢學文典(<https://hxwd.org>)にも引き継ぎ研究成果が公開中。

これらの研究成果を踏まえて、4月から発足予定の研究班「漢籍共同研究システムの構築」で以上のデータベースなどの資料を統合する作業を計画しています。